

【「日本の廃道」ノ歩き方】

～初めての方はご一読ください～

【日本の廃道とは】

「日本の廃道」とは.....を説明するのが面倒なので **ORJ BEST!** を公開しています。どうかご一読ください。というか **公式ページ** 見てね。

【特徴】

pdf形式の同人誌。pdfの機能を（無駄に）活用した作りになっています。なのでプリントアウトには向きません。

毎月1回、15日に発行しています。有料です。気に入ったらぜひ **読者登録** してご購読ください。

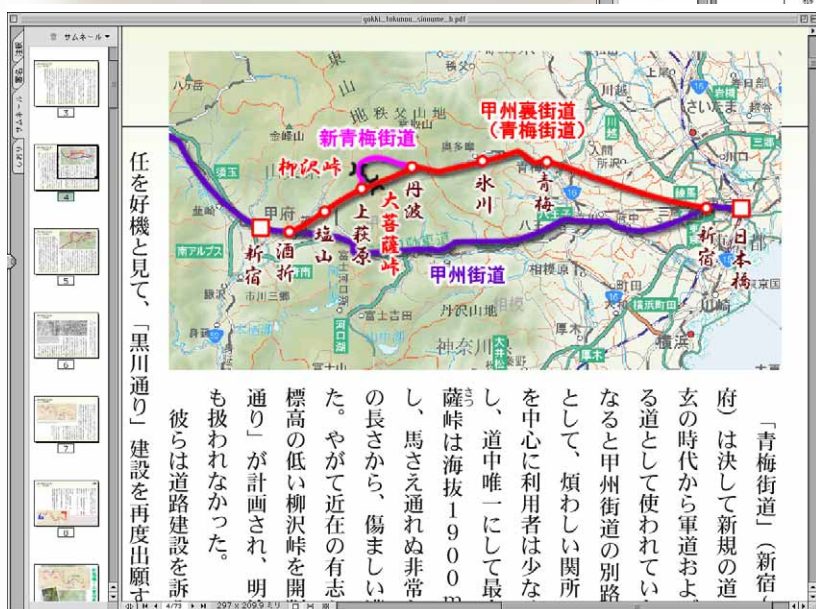
あ、この「歩き方」はいつもはつきません。ORJ BEST! 収録記事だけについています。






● 画像の拡大

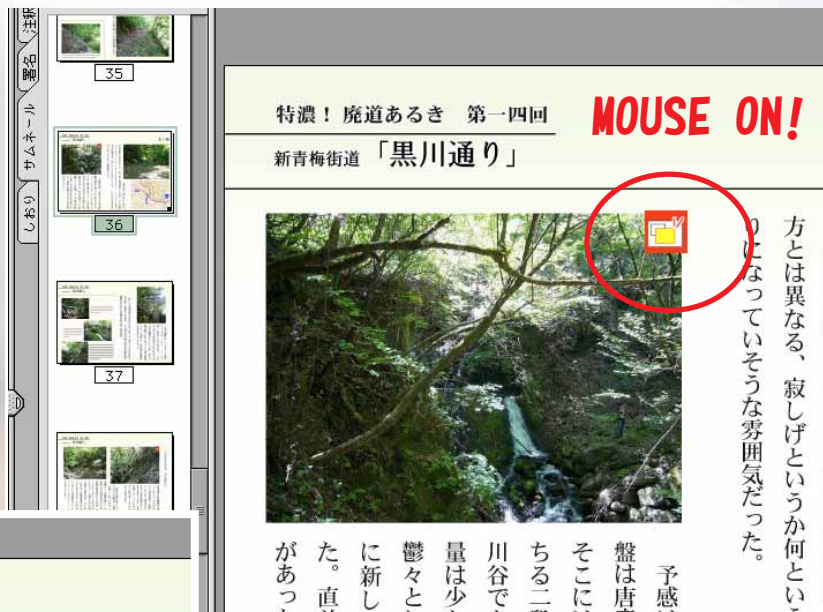
画像をクリックすれば拡大表示し、もう一度クリックすると元に戻ります。

第17号（2007年10月発行号）以前の記事では、写真クリックで拡大「BACK」あるいは「戻る」などのボタンで縮小を行なうものがあります。



●ポップアップ・補助線表示

画像に「」や「」のアイコンがついたものは、マウスをあわせると別画像がポップアップします。「」は補足情報が吹き出されます。吹き出されるって何だ。クリックでポップアップするものもあります。



●リンク

本文中の破線囲みはリンクです。色によってリンクの種類が違います。

青：pdf内部の移動リンク **水色**：webサイトへのリンク

ピンク：「日本の廃道」バックナンバーへのリンク

赤：web上のpdfへのリンク **緑**：その他（画像ポップアップなど）

すでに該当号をお持ちであることと、ファイルが次のような位置関係に置かれていることを前提としています。BEST！版は“ORJ_0001”というフォルダを作って他と同じ階層に置いて下さい。

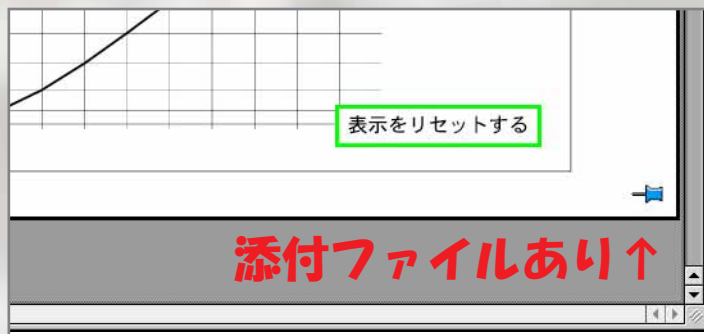
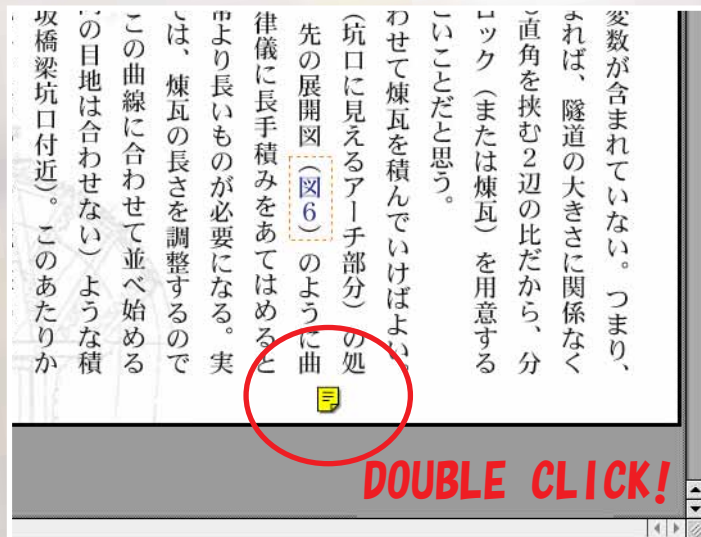
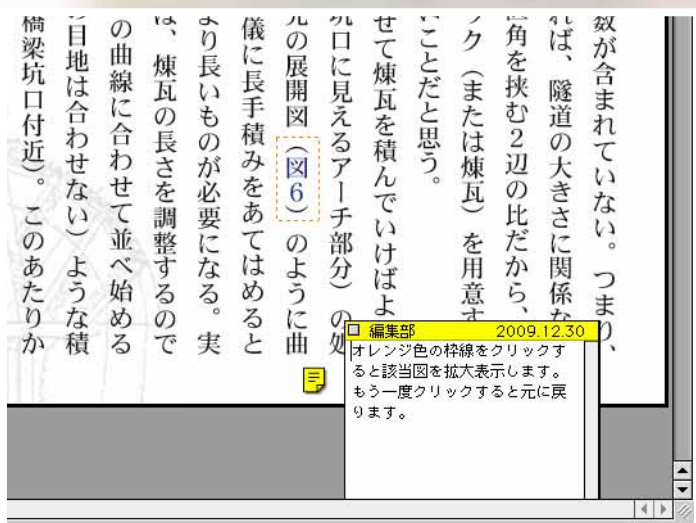
[例]

```
ORJ_0001 .....フォルダ（自分で作る必要があります）
  |
  |- yokki_tokunou_sinoume_b.pdf
  |- tuka_oushuu_b.pdf
  |- higasikumano_01_b.pdf
  |
  |
ORJ_0801 .....フォルダ（自分で作る必要があります）
  |
  |- ORJ_0801.pdf
  |- top_0801.pdf
  |- whatsnew_0801.pdf
  |
  |
ORJ_0802 .....フォルダ（自分で作る必要があります）
  |
  |- ORJ_0802.pdf
  |- top_0802.pdf
  |- whatsnew_0802.pdf
  |
```

●ふせん、添付ファイル

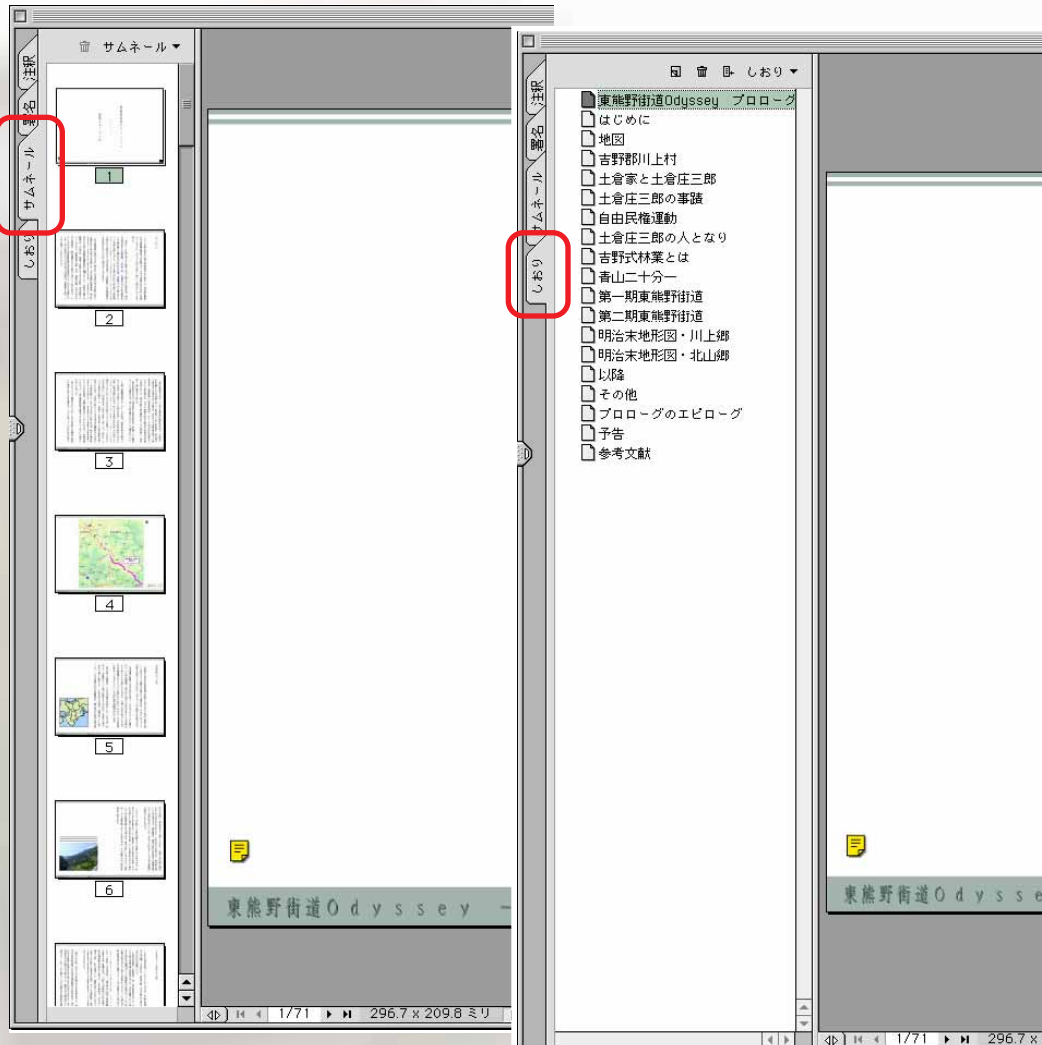
pdfの機能・「ふせん」で補足情報がついていることがあります。クリックすると展開され読むことができます。

ピンの形をしたふせんアイコンはファイルが添付されています。ダブルクリックで対応アプリケーションが開き、内容を表示します（右クリックで保存することもできます。添付内容に不安のある方は別名保存してご確認ください。大したものはないかもしれませんが）。



●しおりとサムネール

デフォルトでは画面の左端に「サムネール」が表示されます。クリックすればそのページが表示されます。「しおり」に切り替えればテキスト(見出し)で表示させたいページを選ぶことができます。



他にどんな記事があるの？

公式ページに一覧があります。BEST！版に興味をお持ち下さったはぜひご覧下さい。そうでない方は無駄なpdfファイルをダウンロードしてしまったことを嘆いてください。

「日本の廃道」誌の歩み

<http://www.the-orj.org/history/history.html>

各号の収録記事一覧と簡単な解説あり。

都道府県別記事一覧

http://www.the-orj.org/history/history_p.php

県別に記事を表示します。エリアでお探しの方はこちら。

「カテゴリー一覧」

http://www.the-orj.org/resist/kiji_order_1st.php

ネタ別で記事をお探しいただけます。ここからCD-R購入することもできます。

【制作コンセプト】

15インチサイズのディスプレイ（1024×768ドット）で読むことを前提とし、本文は拡大・縮小せずに読める大きさを製作しています。ディスプレイが小さくてお困りの方は買い替え「全画面表示」をお試し下さい。

画像は拡大して隅々まで見られるような大きさを貼っつけてます。またフォントは基本的に埋め込みです。なので一般的なpdfに比べて非常に大きなものとなっています。ご了承ください。

【pdfビューアについて】

動作確認はAdobe社のAcrobat（Acrobat Reader）にて行なっています。その他のビューアでは予期しない動作をする場合があります。編集部までご連絡いただければ、できる限り対応をします。

Acrobatのバージョンは4.0以上（PDF 1.3準拠以上のビューア）でご覧いただけます。Acrobat Readerの古いバージョンは以下で入手できます。

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/alternate.html>

【「日本の廃道」ノ買い方】

～初めての方はご一読ください～

3種類の購入方法があります

歴史的な経緯から（何、3種類の購入方法があります。まずは「**お試し購入**」か「**CD-R購入**」で有料号をお求めいただき、気に入ったら「**アカウント方式**」で継続購読されるとよいでしょう。

購読料のお支払いには次の手段が使えます

- ・クレジットカード払い（手数料3.4%+ ）
- ・ゆうちょ銀行口座（手数料無料～）
- ・ゆうちょ振替口座（手数料90円～）
- ・eバンク口座（手数料無料～）（2010年2月より有料になります！）

それ以外も受け付けます

ご希望の号と代金（あるいは代金に相当する何か）を編集部に送りつけてください。何とかします。

アカウント方式

「日本の廃道」読者登録をして、前金で購読料を入金していただく方式です。まとめてご送金いただくことで振込み手数料を節約することができます。また、修正情報をメールで取得したり購読記録を残したり、購読料から差引してアイテムを購入することも。

詳細は下記「読者登録をする」をクリック！

読者登録する



購読料を入金する／連絡する



連絡をまつ



ダウンロード

CD-R購入方式

読者登録が面倒な方、前金入金が不安な方はCD-R購入をお試ください。ご希望号をCD-Rに焼いてお送りします（送料実費）。

「CD-R購入」ページで記事を選ぶ



CD-Rが届くのを待つ



代金を支払う

お試し購入方式

とりあえず試しに1部購入してみようという方向け。クレジットカードによる決済でその場でダウンロードできます。そのかわり毎回手数料が掛かり、割高になります。(例：400円の号を購入 455円のお支払い)

お試し購入はダウンロードページの「」アイコンをクリック。

ダウンロードページの「」をクリック



PayPalで必要事項を入力



ダウンロード

— 旧橋紀行 —

福島県・秋元橋

猪苗代湖開発の知られざる遺構

猪苗代湖の水源開発の歴史は古い。湖からの唯一の流出口である日橋川周辺に戸ノ口堰、布藤堰が作られたのは江戸時代初頭のこと。さらに天明6年（1786）には、日橋川に架けられていた十六橋が両堰に水を取り入れる目的で23径間の石橋に改築された。水門はなく、堰に取水する以外は日橋川に流されていた。

明治になり、湖の東方にある安積平野を灌漑する国家事業に伴ない、旧来の石橋を取り壊し、新たに16径間の水門兼用の石橋を建設して猪苗代湖の水位を調整した。



「土木学会付属・土木図書館」様より転載

今回の紀行人は…

TUKA

旧橋紀行⑨ 福島県・秋元橋



安積疎水十六橋水門



今日の十六橋。奥に「戸ノ口水門監守所」の建物が保存されている

大正時代になり猪苗代湖の豊富な水が電源として着目され、九州鉄道の社長であった仙石貢が猪苗代水力電気を設立。日橋川沿いに複数の発電所を建設することになった。発電所は大量の水を必要とすることから、水門を新設することになり、明治の石橋水門を撤去。大正3年(1914)、電動式ゲートを備えた水門が完成した。(十六橋水門 近代土木遺産 Aランク)

現十六橋の袂にある公園に、もう一つの親柱も保存されている。(下図)。何の説明もないので、一般の人にはこれが何であるか判らないであろう。よく見ると、周囲を囲む土留めも欄干の流用であった。



これが明治13年(1880)に完成した、安積疏水・初代十六橋水門である(前ページ図)。当時の親柱が現存している。会津若松市にある白虎隊記念館の入口脇に欄干と一緒に展示されていた(上図)。深々と「十六橋」と刻まれている。



旧橋紀行⑨ 福島県・秋元橋



秋元湖西岸に建設された堰堤。奥に水門が見える



秋元湖水門

その際、車道は分離して設置されることになり、やや上流に建設された。この橋も現存しており、現在でも自動車の通行が可能だ。(十六橋 近代土木遺産 Bランク)

水門建設と同時に、猪苗代湖の渇水対策も実施された。明治21年(1888)、磐梯山の噴火により、湖の上流に当たる川が堰き止められて出来た三湖(松原湖・小野川湖・秋元湖)に堰堤と水門を設置し、必要に応じて猪苗代湖に水を供給する体制を整えたのである。

秋元湖での堰堤工事に伴ない、工事用道路が敷設された。その際、長瀬川に橋が設置されたわけだが、なんとつ！90年前の工事用橋梁が今も現役の車道橋として現存していると言う。「近代土木遺産2800選」に掲載された情報を元に設置場所を突き止めると、驚いたことに何度も通ったことのあるおなじみの橋であった。それが、今回紹介する秋元橋だ。

旧橋紀行⑨ 福島県・秋元橋



過去に通行した時には全く気にも留めていなかった橋の詳細を観察する。親柱は4本共あるが、全て無銘。欄干もこれといった特徴はない。これらは後補のものである可能性もある。

河原に下りて側面から見る。3径間の上路式ガード橋であるが、中央の桁がきれいな曲線を描いている。下曲線プレートガード橋は国内唯一とのことで、「近代土木遺産 Cランク」と評価されている。

この特徴的な形状から、転車台あるいは天井クレーンからの転用ではないかと書かれているが、桁の側面にある巨大な銘板からこの橋の生い立ちが判明した。銘板の情報を元にnagajs氏がつけてくれ



旧橋紀行⑨ 福島県・秋元橋

磐梯山噴火に伴なう土石流により、現在裏磐梯と呼ばれるこの地域が壊滅的な被害を受けてから、まだ20数年しか経過していない時期に架けられた鉄の橋に、地元の人々は復興の光を感じたかも知れない。明治時代にクレーンとして輸入され、大正初期に転用されて工所用橋梁として生まれ変わった秋元橋は今も人や車を通し続けている。



いによるものなのか、橋に転用する際に切られたものなのかは、今のところ不明。いずれにしても、明治期の殖産興業の時流に乗って日本に輸入され、どこかの工場で使用されていたクレーンのうち2本が遠く福島県の山村に運ばれて、橋桁として転用されたのだ。

たのが上図だ。イギリス・マンチェスター市にある「科学産業博物館」のサイトにクラベンブラザーズ社に関するページがあった。1853年創業の総合機械メーカーで、海外へも輸出していたが、現在は廃業しているとのこと。鉄道車両工場で客車を吊り下げている天井クレーンは、秋元橋の主桁とそっくりではないか。銘板を拡大すると「15 TONS」とある。秋元橋のは「25 TONS」とあるから、それよりも下級のものだ。橋桁は両端が切断されたような形状をしているが、これは機種の違



旧橋紀行⑨ 福島県・秋元橋



参照：国土地理院1:25,000地形図 磐梯山



秋元橋（上流側）

CRAVEN BROTHERS LIMITED クラベンブラザーズ社
25TONS 25トン
1896 明治29年製
MANCHESTER マンチェスター市



【秋元橋】

所在地	福島県北塩原村
竣工	明治29（1896）年製造→大正前期に移設・転用
橋長	32m
スパン	12.8m（g+G+g）
形式	下曲弦プレートガーダー桁（上路、クレーン用ガーダー流用） 近代土木遺産Cランク

旧橋紀行⑨ 福島県・秋元橋



下流側



両脇の桁は一般的な直線のガーダーだが、本体にボルト穴が並んで開いている。こちらも何かからの転用のようだ

横構に相当する部材はなく、下弦が鋼材（橋型レール）で繋がれている。これもクレーンから流用されたものらしい



スチフナー

スチフナー（補剛材）はイギリス製に多く見られるJ型ではなく、アメリカ式の直線であった。補機を固定していたと思われるボルト穴が、今もそのまま開いている



旧橋紀行⑨ 福島県・秋元橋

この記事の感想をお聞かせください。

公式サイトアンケートのほか、下記フォームからお送りいただくこともできます。みなさまのご意見、お待ちしております！

1. この記事はいかがでしたか？

←つまらない・役に立たない ふつう おもしろい・役に立つ→

1 2 3 4 5

2. コメントをどうぞ！

(空欄でも結構です。内容は「日本の廃道」公式サイトや本誌で公開する場合があります。公開を希望されない場合は「公開不可」にチェックを。)